‘ὁ κόσμος, ἀλλοίωσις· ὁ βίος, ὑπόληψις.’

33号 1991.6.15
文・編集・発行
恋怪子

LIVE: 毒入りマヨネーズ 1991.5.27 原宿ルイード → ザ・ぴくぴくず 1991.6.9 水道橋バリオホール → ミラクル・クッキーズ 1991.6.11 渋谷 TAKE OFF 7

去年4月10日のザ・ぴくぴくずのライブで「3時のおやつ」ミラクル・クッキーという歌をきいた。この時録ったテープ何回もきいた。どんどんダビングして配りまくった。だから情報誌でミラクル・クッキーズというバンド名を見た時、「これ、きっとザ・ぴくぴくずと関係があるにちがいない！」って思った。それがもうずいぶん前のことで、ミラクル・クッキーズの名前を見るたびに行きたいと思ってたんだけど チャンスをつくれないままになってしまっていた。ザ・ぴくぴくずもあれ以来ききにいかなかったし…。5月14日にTAKE OFF 7に元DEAD ENDのYOUをききにE.I.Eのライブにいかなかったら多分もうしばらくはチャンスがなかったかもしれない。E.I.Eのあと、毒入りマヨネーズというバンドがやって、それをきいたことが6月11日、やはりTAKE OFF 7のミラクル・クッキーズのライブに行くきっかけになった。というのは…。毒入りマヨネーズって見るのもきくのもこの日がはじめてなんだけど、ヴォーカルのノボルのおしゃべりがおもしろくて、すぐにザ・ぴくぴくずのヴォーカル兼ギターの大坪サチオを思い出した。思い出しただけじゃなくて、あんまり似ているので、歌の声はずいぶんちがうのはわかったけど、1年たてば変わることだってあると思っちゃって、ノボルとサチオって同一人物かもしれないって思っちゃった。だって笑わせ方がザ・ぴくぴくずとおんなじなんだもの。おまけに毒入りマヨネーズのキーボードの人がザ・ぴくぴくずのキーボードの人だっていうんだもの。

で、それを確めたいのもあったけど、なによりライブがよかったので5月27日にルイードに毒入りマヨネーズをききにいった。30分くらいしかやらなかったけど、よかった！楽しかった！笑った！テープ録った。ザ・ぴくぴくずの「スナック むらさき」のさわりは やるし、5月25日に出たザ・ぴくぴくずのCDの宣伝はするし。同一人物かどうかはわからずじまい。

で、6月9日バリオホールでザ・ぴくぴくずのデビュー・ライブがあると5月14日にもらったチラシに書いてあったので（何と入場無料！）ワクワクしながらバリオホールに行った。去年の4月以来1年ぶりのザ・ぴくぴくず。見た目はスマートになっていたけど、演奏も大坪サチオのおしゃべりも元気がなくて、ちぢこまっている感じで残念だった。きいている私の方もサチオとノボルが同一人物かどうかってことに気をとられているのもよくなかったかもしれない。途中から どうやら別人らしいと気がついてきたけど。ライブがおわって会場を出ようとしたら、毒入りマヨネーズのノボルが上の方（バリオホールって客席が階段教室みたいなのだ）にいるのか見えて、これで決まり、別人だ。大まちがいでした。5月14日毒入りマヨネーズのライブに来てたファンの女の子にきけばすぐにわかっただろうけど、自分で確めることにしたおかげで3週間も楽しませてもらいましたよ、ノボルさん、サチオさん。

で、6月11日TAKE OFF 7のミラクル・クッキーズにいくことにした。情報誌でチェックはしてあったけど、6月9日のライブで大坪サチオが「矢沢永吉よりすごい奴がいて、矢沢ノボルっていうんだけど、11日にTAKE OFF 7でやるんでよかったらいってみて下さい」みたいなことをいったので、これはいくっきゃない！

で（なんと4回目の“で”デス）ミラクル・クッキーズというのは、ノボルがヴォーカル、大坪サチオがギター、それとザ・ぴくぴくずのベースのジェリー・桑名がベース、あとドラム、という4人編成であった。ノボルとサチオの2人がステージにいるのを見て、自分の大まちがいがおかしくて一人で笑っちゃった。ザ・ぴくぴくずも毒入りマヨネーズも曲と曲のあいだのおしゃべりもライブの魅力になっているんだけど、この日のミラクル・クッキーズの1時間くらいのライブでは、それがほとんどなくて演奏バリバリ。大坪サチオのギター、ものすごくすてき。全然しゃべらず、すこしコーラスで歌うだけで、ひたすらギターを弾いていて、「うまーい！」って声がでてしまいそうだった。ベースもいいし、ドラムもいい。ヴォーカルもきかせる。歌詞に皮肉があって、あのすてきな演奏にのるとても独特。ミラクル・クッキーズの前にやったSADIE FEATURING TAKESHIをひっくり返してしまう感じだった。このバンド、いまふうのおしゃれなサウンド、おしゃれな（つもりの？）ステージ。わたせせいぞうのイラストのBGMみたいな。ありふれている、というよりもありもしないようなイメージだけの歌詞のラブソング。ミラクル・クッキーズはそれを全部ひっくり返していた。わたせせいぞうのイラストがペラペラの紙になってしまうようだった。歌詞も演奏もふくめた音楽へのつっこみがものすごい。ミラクル・クッキーズは一流！大坪サチオのギターはサイコー！またダビングして人に配りまくろう！

それから アンコールでノボルが「15日エッグマンの昼、オレのライブがあるから来てくれ、毒入りクッキーズっていうんだ」というのをきいてハハハ！

右の写真のまん中の2人がミラクル・クッキーズ いちばん左が毒入りマヨネーズ。4人全部でザ・ぴくぴくず。というわけでした。

しかしこの3週間おもしろかった。ふ。まちがいの大はずれ！この4ヒトつくりまがらスしぶりに去年4月10日のザ・ぴくぴくずのテープをきいた。笑った。ききほれた。機関銃みたいな大坪サチオのしゃべりに耳がついていけない。

LIVE: ラブミサイル 1991.6.10 新宿ロフト

5月30日ラ・ママできいたときは、ききやすいポップスという感じしかしなかったけど、この日は全くちがってパワフルで魅力的だった。ヴォーカルの人の表情が、とくに目がいわくして、それがあの歌の甘さ、声の甘さとまったくちがった対照でそれがよくて見とれながらききほれていた。「こわれたオモチャ」とくにすてきだった！ラ・ママのときと同じようなコスチュームなんだけど、この日はそのコスチュームが歌の世界をじゅうぶんにいかしていた。

この世を消してくれて、私の体を消してくれて、ありがとうっていいたい。

ラブミサイルの次のライブ 7/5 ラ・ママでワンマン

LIVE: THE YELLOW MONKEY 1991.5.30 渋谷ラ・ママ

ねえ、他人をギンギンに酔わせて、自分はギンギンに醒めてるって、どんな感じ？THE YELLOW MONKEYのステージを見ながら歌をきいていて、ヴォーカルの人にそう尋ねたかった。ものすごく幻惑的で、それはもう異様的といってもいいくらいなのに、ものすごく醒めてる。道化の仮面にかくれたもうひとつの顔がある。その顔の両眼が仮面から他人を見ている。

だけど、あんなふうに妖術をつかっていたら、酔わされた人たちにしがみつかれて、仮面が顔からはがれなくなってしまうよ。

LIVE: RIP VAN WINK 1991.6.10 新宿ロフト

RIP VAN WINKのCD 7/21 発売。ライブ 8/4 ロフト

はじめから「SET THEM FREE」になるまではきいていて楽しく、自然に笑顔になっていた。それが「SET THEM FREE」で一変、顔から笑いがきえていくのが自分でもわかった。

音楽をきいているんじゃなくて、音楽のつくり出す世界を視ていた。「さまようこのなかで いつかやさしいメロディーにかわるだろう」というところをきいて、「SET THEM FREE」のTHEMは、歌にすることで、メロディーにすることで解き放つなにかなんだなって思った。そして、私も心の中であふれんばかりになっているなにかを解き放って、自分らしく、自由になろう！って思った。「夜と朝のすきまから生まれおちた天使よ」「あつい光のシャワーをあびて大地をかける人たちよ 苦い川を何度も何度もわたって海へいそぐ」いい歌詞！

最後の「バンジョーマン」では また笑顔になった。すてきなライブだった。

PREACHING: 渡辺正（「どっこいフジヤマは生きている」アンティック発行「SOS」5月号より）

世の中いいことと悪いこと半分半分ってのが常ですが、よくそもそもこう言と不安がいっぱいあります、とりあえず前へ前へいってとけば全てが解決できるので、ガチ、ガチ、〜ンと生き続けましょう。ふり返ってみればどんなことも今に大したことないと思うでしょうです。私は悩みもあらいた気分の毎日です、でもこれは決して感性からくるものじゃないよ、つらいけど毎日がめくるめくバラ色の世の中だわい。居直り続けての歴史は長い。そんな今はいつもフジヤマです。パン食べるさんか！パン屋、どうでそれいいようなかっつけのかっ悪いバンドもあいけど それなりに俺もる男持ちの強いやつは いるところにはしっかり生きているのだし、もういいかげんに人生かけてないバンドにみきりつけて、本当に今生きているやつの音をしっかりみつけて つっぱなって初、やが道。バンドブームは終わっちゃいないよ。0〜1つは天才でなんがないよ。全だけのバンドブームは終わったかも知れないけど、さてこれからだ。だいたいバンドブームとかいわれても フジヤマは金ともうからなかったし 知り合いのかっこいいやつは何ての変化もなかったよ…だから、だからこれからなんだよ。ライブハウスで好き勝手にやんでいいたいこと言、てればまず前へ前へ行けると、前へ前へ、いろんなことが出てくると、やり続けるバカさかげんを集約と思ってやりましょう。結婚というものが良いことだとするなら、おめでたいことが2件ありますわ、それは原爆オナニーズのシゲちゃんが 幸せになった、赤森のくーちゃん（G）も6月に入ってゲ結婚式をするんだ。私みたいに結婚してへんくつな独身になるなんじゃくれよ。幸せというものが悪いことだとするなら、バンドやってるアンズのさんすけが、幸せくなって言葉もない。5年ぐらい前にフジヤマに来て、ニコニコしながら「こんなホノボノした奴やりたいなあ」なんて言っていたのに、ちょんじゃって、ナニ考えていたんだ。いろんなことやって前へ前へ生き続けなきゃ。

バンドはいいだって極端だ。極端な“なきゃ人生いろいろわからない”素直に動けるクッパワーのようなものがなければ極端になれない。楽しくなれない。人生かけたステージってくれよ。そういないと人間が見えなくなるから。私はイカした0〜1つバンドを見たいんじゃないんだよ。イカした人間の作る0〜1つバンドを見たいんだよ。ロンドンオンリーの人間のいうことをきいてみたいんだ。極端でいいんだよ。そこから何かが見えてくるんだよ。そして前へ前へ、生き続けちゃうんだ。世界に大めーわくかけたつもりでブッシュだって、いろいろ極端なことをいって考えさせられたじゃないか、いろいろ発明できたじゃないか、人殺しする訳じゃないだろうバンドって。だから、生きて楽しく交めたには極端に生まれ！私にはできないことだから極端にバンドに生きてくれ、愛なるバンドだったら、私にもできるよ。絶対信じた物

「PREACHING」とは「説教」、キ、つ